



プラスチックごみ問題への対応

神戸市環境局長 福本 富夫



みなと元町タウン協議会の皆様におかれましては、常日頃、元町地域におけるク

リール作戦をはじめまちの美化に熱心に取り組まれておられますことに敬意を表しますとともに、平素から身近な環境行政にご協力をいただいておりますことに感謝申し上げます。

さて、省エネルギーやごみの減量・資源化に取り組み、豊かな自然環境、健全な水大気環境の保全などに努め、神戸市のくらしと社会を持続可能なものとしていくことが環境局の役割ですが、現在、プラスチックごみへの対応も大きな課題となっています。

プラスチックは、社会や経済の発展により私たちの暮らしが便利になる中、身近に使用されてきました。しかし、プラスチックの一部は、ポイ捨てなどにより街中へ捨てられ、やがて風や雨で川に流され、河川等を通

は、海洋プラスチック問題をテーマとしたシンポジウムを開催するなど、市民の皆様の理解を促し、意識を高め、具体的な行動に繋げていただこうとNPOや民間事業者など様々な主体と協働して取組みを進めています。



また、近年のプラスチックを取り巻く国内外の状況を踏まえ、今後の方向性について検討を行うため、神戸市環境保全審議会において議論を始めたところであり、今後、学識経験者や市民代表、事業者代表の意見を踏まえ、神戸市のプラスチックごみに対する今後の方向性を定めていくことを考えています。

プラスチックごみの問題は、世界的な課題ではありますが、その対策としては、市民ひとりひとりの意識や、地域での取組みの推進が非常に重要です。

みなと元町タウン協議会の区域は、古くから個性豊かな商店・事業所が集まる商業業務地区として、また、近年ではマンションなどが立ち並ぶ住宅地という面をあわせ持つ、さまざまな人が住み、人が集うまちです。

今後とも、みなと元町らしさを大切にしつつ、魅力あふれる美しいまちづくりの取り組みを引き続き進められますようお願い申し上げますとともに、みなと元町タウン協議会の皆様の一層のご発展をお祈りいたします。



平成30年度「美緑花こうべ環境ポスター展」入選作品

「元町・夢街道」

書店の話(30)

海文堂④

岩田 照彦

ホッチギス留めされた三枚の紙は、九月三十日閉店までのスケジュールだった。

神戸の書店地図は、大きく変わっていた。昭和五一年一月、ジュンク堂書店が、これまで神戸市内ではみられなかった大型店を三宮センター街に開業、五七年、同社は三宮駅前の商業ビル・サンパルに大規模な専門書店を開く。

この動きに立ち向かった巖々堂は平成八年九月、三宮センタープラザに開業、が、同十二年一月、姿を消す。昭和四十年、海文堂書店や日東館書林など五社で三宮地下街に出店した書店コーベックスも平成一四年三月、南天荘書店とともに廃業、平成十九年十二月には元町五丁目の宝文館が、翌年一月には古書のお舗、後藤書店も姿を消していた。

少子化による読書人口の減少、ネット社会の進化による若年層の本ばなれ、ネット書店の台頭、図書館の充実など、いろいろな条件が重なり合って新刊書ばなれがすすんでいた。

そうしたなか、海文堂の閉店である。閉店を知ったお客さんの声を、レジに立つていた平野が書きとめている。

「ワシ、来るとこなくなるやん」(住吉のおじいちゃん)

「なくなるのねえ? 神戸の宝なのね」(高知から来てくださった女性)

「海文堂書店に来なければご先祖様にお参りできない」(帰省途中遠回りで訪問)

「さびしいわ、さびしいわ、さびしいわ・・・」(妙齢の女性)

「これからどこで買え、言うねん!」(常連の佐藤さん)

「シベリアから帰ってきてからずっと通っている」(ご老人)

「ほんまにやめるのん! なんでよ、なんで」(常連のご婦人)

「数字とかお金とかで代えられないお店ですのに。残念です」(徳間書店の女性)

「義憤を感じる。ここがわしの体質におうてんねん。どこで買え言うねん」(ご老人)

「四年間暮らした街のまんなか海と名の付く本屋があった」(朝日歌壇・山田さんの句)

平成二十五年九月三十日、長蛇の列になった購買者のレジは、定時の十九時でも終わらず、最後の客を見送ったのは閉店時間を三十分も過ぎていた。お客さんの姿は店内から消えたものの、見送ったはずのお客さんが商店街の通行を封鎖するような形で人の輪になっていた。

福岡店長は、スタッフ全員を背に、店をとり囲んだ来店客のためあいさつに立った。「本日をもちまして、九十九年四月、みなさまにかわいがっていただきましたが、幕をおろさせていただきます。(中略)われわれ海文堂のスタッフもお客様とおはなしさせていだきながら、それによって成長させていだきだと思っております。本当に長い間ありがとうございました」

神戸元町商店街 楽市楽座 情報 1月

◇元町1番街商店街振興組合 TEL331-7850

水曜市 1月15日(水)11時～19時



◇風月堂ホール(有料) TEL321-5555

もとまち寄席「恋雑亭」 1月10日(金)

笑福亭 呂好 桂 紅雀 桂 文鹿

桂 塩鯛 桂 春雨 桂 文珍

前売券は12月11日より神戸風月堂で発売

◇元町映画館(有料) TEL366-2636

1月1日(水)～1月3日(金)

『スーパーティーチャー 熱血格闘』

1月1日(水)～1月10日(金)『みとりし』

1月1日(水)～1月17日(金)

『台湾、街かどの人形劇』

『ソニビ』日本初公開復元版

1月4日(土)～1月10日(金)『夕陽のあと』

1月4日(土)～1月17日(金)

『アダムズ・アップル』

1月11日(土)～1月17日(金)

『お料理帖 息子に遺す記憶のレシピ』

1月11日(土)～1月24日(金)

『ジョン・デロリアン』

『パウハウス100年映画祭』

1月18日(土)～1月24日(金)

『この星は、私の星じゃない』・RUN!3films』

1月18日(土)～2月7日(金)『さよならテレビ』



栄町通まちづくり委員会は12月13日(金)10時から10時30分まで、栄町通を中心に、ゴミ拾いと不法ビラ撤去、自転車・バイクなどへの不法駐輪警告チラシ取り付け作業など、栄町通クリーン大作戦を実施した。参加者は、(神戸市)川口雄也、(兵庫県信用組合)仲川・亀田、(広島銀行)積谷康之、(㈱KKテクノ)松本美紀・松尾拓弥・吉田零、(㈱神明)厚海徹・高木紫苑、(三鈴マシナリー)田中梨沙、(大一産業)松井一実、(佐野運輸)北島幸宏・末松明、(走水神社)児嶋英毅、(新光明飾)篠原博明・大森貴美子・西村友博、(佐田野不動産)佐田野宏之以上、18名のみなさんでした。毎月第2金曜日午前10時、栄町通6丁目佐田野不動産前集合の上、実施しています。お気軽にご参加ください。



編集後記

二十年にわたり「元町夢街道」を書いてきた時間の壁に立ち向かい、紙面を活字で満たすための葛藤である。元町の話は元町同様おわりのない話だが、書店の話は区切りに、一旦、お休みをいただくことにした。初代の編集長をはじめ、多くの方から提案をいただいた「企業会紹介」欄を、令和二年二月号からスタートさせるためである。毎号一企業の紹介だから、数年にわたる連載記事になる。ご登場いただく企業各位がスペースを自由にご利用いただき、型破りの企業会員名鑑になれば、と期待している。ささやかな地元企業の情報交換が縁で、新しい取引につながるこれがあれば編集部としてこれ以上の喜びはない。ということで、企業各位には順次資料の提供や原稿提供をお願いすることになりますので、ご協力の程、よろしく。

海という名の本屋が消えた (74)

平野義昌

元町通周辺地名の歴史(4)

本章(1)で元町旧三ヵ村(「神戸村」「二茶屋村」「走水村」)の町名を紹介した。江戸時代から明治初めまで使われていた。東から、「大手町」「濱町(濱之町)」「札場町」「松屋町」「中町(中之町、仲町、仲之町)」「西町(西之町)」「城下町(しろした)」「東本町」「西本町」「八幡町(やはた)」「市場町(いちば)」。郷土史研究者・俳人・古書店店主の岸百舛(きしひやくそう、1902～1976年)が町名の由来と町の並びを説明している。

〈……かつて花隈城の大手口にあたるところより大手町(現元町一)その名の通り浜の町、高札場があった札場町、松屋こと豪商生島家が庄屋をしていた松屋町(元町二)その一部と通りの中央という意味の中の町、その西どなりに位置する西の町(元町三)花隈城の城下町、次の市場の東ゆえとて東本町(元町四)市が立てば立つとて市場町、その西が西本町、八幡宮(現天満宮)の神領にちなんだ八幡町(元町五)再び市場があり市場町、八幡さんの地つづきゆえかここにも八幡町(元町六)を西の涯として終っている。〉註1
「市」は「善福寺」境内の交易だろう。現在の「本願寺神戸別院」である。同寺のウェブサイトに「善福寺」時代の写真があり、昔から大きな寺だったとわかる。「八幡宮」は「天満宮」＝「走水神社」に合祀された。

岸は、旧西国街道・元町通の「川」があったことも記している。
〈いまは坦、低のような元町通りにも明治の果てなんとする頃までには、東の鯉川から西端の宇治川を加えて、よしやそれがせせらぎに等しいにしろ、七本の流れがあったというのだから話の市は栄えるだろう。〉註1(平野註、坦・低とも平なこと)

東の「鯉川」は再度山から海(メリケン波止場)まで流れて、外国人居留地の西限とされた(東は旧生田川、南北は海岸線から西国街道)。古地図「摂州神戸山手取開図」(1873年、神戸市立博物館蔵)では「戀川」と記されている(註2)。元町商店街と大丸の間の南北道路は「鯉川筋」と呼ばれる。〈……明治初年には小川が流れていて、この川によって居留地とその周辺地域との境は判然としていました。しかし、もともと下水溝にすぎないような小さな川でしたし、またこれが交通を阻んで困るので、外国人が組織した行事局から「ここに蓋をしてほしい」という要請が出されました。(後略)〉註3

以下の記録もある。
〈……明治七年四月十二日、外国人らが議を起こして居留地の西辺の境界の鯉川の渠流上に覆蓋を施し汚臭の気を蒸発させようとして同年十月十日西洋建築師ボンクルプロソルを雇って建築した。〉註4
暗渠化は外国人からの汚臭苦情による。「鯉川筋」から元町商店街に入るとすぐ北に道が伸びる。真っ直ぐJ R元町駅とその北側に繋がつている。この道を「穴門筋」と呼ぶ。戦前から飲食店が並び、現在も賑わっている地域だ。戦時中は強制立ち退きにより防空壕が掘られた。註5
「穴門」の由来は不明。同地の古書店「ちんき堂」店主が著書の中で、「トンネルのある小山が鎮座、正確なことはわかっていない」と書いている。店主は、1960年代の雑誌に「金髪の青い目のコールガー

ルが出没」の記事を記憶している。江戸時代には夜鷹もいたのでは、と想像している。註6

戦前にも同様の話があった。
〈……穴門筋は一名鯉川筋とイヒマンネン。昔この川筋に夜鷹が出タンヤト。〉註7
元町駅東の高架橋は「穴門架橋道」と表示されている。鉄道開通当時の駅名は「三ノ宮駅停車場」、駅と線路は北側台地にあった。
〈三ノ宮駅は今日の元町駅で、あそこはちょっとした高台になっているから、当時は南口を出ると東と西へのだらだら坂になっていた。〉註8

1874(明治7)年から1931(昭和6)年まで、汽車は地べたを走っていた。線路と道路が交差する場所には踏切が必要だ。南北に狭い平地の真ん中を東西に汽車が走り、各踏切所で渋滞が発生した。ところが、旧「三ノ宮駅」に向けて線路が高くなり、「穴門筋」にはレング積み目のトンネルができた。絵
〈……僅かの時間の交通停止ヤkend、人と馬車が黒山の様に溜まる。これが何処の踏切でも毎日繰返されてマスが、其中一番ヒドイのが神戸では瀧道兵庫では柳原ダス。(中略)この点へくると三宮の穴門は楽ダス。高架線になつてますサカイ。今迄からコンナ苦勞がオマヘナンド。〉註7

瀧道踏切(三宮)は「親知らず」、柳原踏切(兵庫)は「子知らず」と呼ばれたほどの渋滞で、市民の不満が多かった。註7・補註1
川の話。3丁目、現在の「バルパローレ」の西側を「高橋川」が流れていた。幅1メートルほど、石橋が一段高く架かっていた。3丁目と4丁目の間に「堺目川」。古地図「神戸村図」(神戸市立博物館蔵)には「神戸村二茶屋村境川」とある(註2)。4丁目、善福寺のそば「寺前川」。2丁目、旧「札場町」の「札場川」。それに「胞衣川(えながわ)」(よな川、夜長川とも)、胎児を洗い淨めたと言われる。岸は場所を示していないが、別の研究者は、「花熊村」厳島神社から湧き出て「走水村」に流れていた、と記す。註4・補註2

元町西端「宇治川」。
〈……元町通り随一の大きな流れで、対岸の相生町に向つて木橋が架つていた。堤上には亭でいたる松林が連り、西国街道を旅するものにとっては、夏季の木下蔭はまことにありがたい憩いの場だった。維新騒擾のおりから、ここに西の関門(番所)を置き、東の三宮関門に呼応して無頼の取りしらべを厳にした。〉註1

東から来た汽車が宇治川の鉄橋を渡ると踏切、すぐに「相生町」で西国街道と交差する。ここでは線路の上に「相生跨線橋」が設置され、橋の東たもとに「兵庫県里程元標」が立てられた。
〈……全国初の陸橋で、幅三間(五・四五メートル)の木製、階段があり、人だけが通った。橋の上から汽車が見えると名所になり、「川がないのに橋がある」とうたわれた。〉註9

1889(明治22)年に「相生跨線橋」は鉄橋になり、1910(明治43)年には市電も橋上を通行した。31(昭和6)年、鉄道高架化に伴い橋は撤去される。この時「里程元標」は行方不明になったが、戦後発見され、湊川神社正門脇に立てられた(註9)。現在は元の場所に移されている。

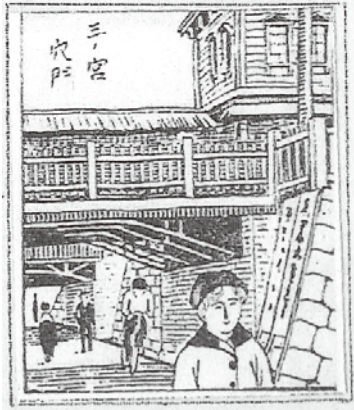
元町に戻る。洋画家・小松益喜(1904～2002年)が戦前の元町の露地をスケッチしている。2丁目の

露地には小川が描かれている。これが「札場川」だろうか。6丁目の露地は3ヵ所。小松は家々の庇や敷石、剥げた看板などに露地の情緒を感じ取る。
〈……ここら辺りは、たそがれどきから街全体が生き生きと生の息吹きをはじめなのである。／この頃はよく女給さんが客引きに出ていて、うっかり通つていようものなら、三、四人の女給さんに引き込まれかねないような有様だった。縦の線、横の線の交錯の面白さがある露地だった。(後略)〉註10
小松は高知市工業学校の修学旅行で神戸に1泊した。自由行動中、元町の露地で客引きの女性に引っ張られたそう。註10

昭和戦前、元町通6丁目に明治時代の花街の名残があった。賑やかな商店街の裏道に飲み屋街があり、粋な名がついていた。全部で9本、南側は東から「志津馬小路」「桂馬小路」「松葉小路」「会話小路」「名誉小路」、北側は「さくら小路」「同心小路」「ひさご小路」「寿美小路」。
〈……同町の写真館の小隠居さんなどの昔の風流人がなづけたさうです……。『(『神戸又新日報』昭和六年三月二十四日)〉註11

小松が描いた露地はどこだろう。今知る由はない。露地の呼称は消え、花街情緒も昔の話である。

註1 岸百舛「歴史随想」(『歴史と神戸』第82号、神戸史学会、1976年)
註2 大國正美「古地図で見る神戸 昔の風景と地名散歩」神戸新聞総合出版センター、2013年
註3 加藤隆久「居留地文化の素顔」(『居留地の3/4世紀』神戸新聞総合出版センター、1993年)
註4 『故福原会下山人郷土史話シリーズNo.18 明治百年記念号 神戸市内町名由来記(上)』福原源九郎編・発行、1967年
註5 狩野光将「神戸鯉川筋物語」東洋書院、2008年
註6 戸川昌士「あなもん」Pヴァイン、2019年
註7 川西たけを「志ぶき 神戸新名所の巻」川西健一編輯・発行、1927年
註8 稲垣足穂「神戸三重奏」(『タルホ神戸年代記』第三文明社、1990年)
註9 神戸史学会編「新 神戸の町名」神戸新聞総合出版センター、1996年
註10 『小松益喜画文帖 K O B E在りし日』山口書店、1981年
註11 加藤政洋「神戸の花街・盛り場考 モダン都市のにぎわい」神戸新聞総合出版センター、2009年
絵 板倉良版画「三ノ宮穴門」(『志ぶき』より)、原寸4×3.5cm。
補註1 「親知らず」、辞書には「孤児」「歯」の説明と並んで、親子が互いを顧みる余裕のないほど危険な海岸、とある。
補註2 「走水神社」由緒、「旧花隈村の内に、近郷近在まで音に聞こえし清水、四時滾々として清烈な水が湧き、二ツ茶屋御所坂下、殊に水勢強く豪雨の際は道路に氾濫、恰も小川の如く渦をなして落下(後略)」(『兵庫県神社庁 神社検索』。
http://www.hyogojinjacho.com/data/6301053.html



神戸病院(『写真集 神戸100年』神戸市、1989年)

出来事ファイル (No.20-1)

■兵庫県社会福祉協議会から感謝状

神戸元町ミュージックウィーク実行委員会は、令和元年9月28日～10月6日まで、元町商店街界隈で開催した第2回元町ミュージックウィークのチャリティコンサートで、招待者からの寄金190,755円を、協和会館で11月12日(火)、実行委員長・近藤裕重から兵庫県社会福祉協議会の吉元知之会長に贈呈した。同実行委員会では毎年寄付を行っている。



左から下村俊子顧問・吉本智之会長・近藤裕重実行委員長

■クラフトチーズEXPO

もとまち三丁目商店街では11月30日(土)と12月1日(日)の2日間、日本全国のチーズを集めて販売する[JAPAN CRAFT CHEESE EXPO]が開かれた。生産地を九州・沖縄、近畿・中国、東日本、北海道の四ブロックに分けてチーズを紹介、宣伝した。老祥記、神戸北野旭屋精肉店、神戸近藤彦の神戸3店舗が、出展工房のチーズを使用した商品の限定販売も。



■十一月一日からの元町・協議会地域民生委員決まる
神戸市広報紙十二月号に、十二月一日から向こう三年間、生活や子ども、福祉のことなど、皆さんの身近な相談相手として活動していただく元栄海地区の民生委員・児童委員、主任児童委員のメンバーが発表されました。委員のみなさんの活動内容の例として、次のようなものが紹介されています。
①地区内での要援護者の実情把握・相談・訪問・支援など
②生活のこと、仕事のことなど、暮らしに困っている皆さんへの支援
③保険・福祉に関する制度やサービスの情報提供
④ふれあいのまちづくり協議会や区社会福祉協議会など地域団体への参加・協力
⑤地域の皆さんによる子育て支援活動への協力
⑥主任児童委員は、それぞれの地区を担当する民生委員・児童委員と連携して行う児童福祉に関する活動、など。

■生田警察署と懇談会開催

11月19日(火)午後3時からまちづくり会館で、元町商店街連合会とみなと元町タウン協議会役員、神戸市関係者と生田警察署各部門担当責任者との懇談会が開かれた。中村裕之生活安全官と奈良山会長のあいさつにはじまり、地元から自転車通行問題や来街者のエチケット、元町商店街の道路使用許可時間帯の確認、鯉川筋交差点への対応など、交通問題を中心に質疑が交わされた。



■4丁目で健康フェスティバル

「医療を知ろう!」を旗印に、兵庫県保健医療協会が11月23日(土)、元町通4丁目商店街で健康フェスティバルを開いた。血圧測定や血管年齢、口腔内チェック、さらには健康に対する悩み相談の窓口もあり、子供ずれなど多くの人でにぎわった。アンケートとともに豪華賞品のあたる健康クイズも用意され、ラジオ関西「医療を知ろう」の公開収録も行われた。



■AED講習会開く

元町商店街防災懇談会(座長・奥田広典)は11月18日(月)9時30分から、まちづくり会館2階ホールで、中央消防署の指導でAED取扱い講習会を開いた。元町商店街の組合員店舗から20数名が参加、倒れている人の安全確認から反応、呼吸確認、胸骨圧迫、人工呼吸、心肺蘇生法からAED電極パッド装着、心電図の解析、ショックの実施など取り扱い手順を習得した。



■神戸駅東地区クリーン作戦

12月4日(水)、神戸駅東地区クリーンチームがハーバーロードから神戸駅まで、歩道の清掃作業を実施した。参加したのは奈良山会長以下エスタシオン・デ・神戸、ネットトヨタ兵庫(株)のほか、中央障害者地域生活支援センターから多くの方が参加した。



エスタシオン・デ・神戸のみなさん



ネットトヨタ兵庫(株)と中央区自立支援協議会一のみなさん

□読者プレゼント

冬季特別展「138億光年 宇宙の旅」
2018年、創立60周年を迎えたNASA—アメリカ航空宇宙局。本展では、NASAの画像を中心に、惑星探査機や観測衛星、宇宙望遠鏡群などで明らかにされた美しい天体や銀河の姿に焦点をあて、サイエンスでありながらアートのごとく、見る者を魅了する数々の天体写真を展示する。

鑑賞ご希望の方は、住所、氏名、年齢、本紙へのひと言を添えて編集部まで。先着順で5組の方にペア招待券をお送りします。

期間:
2019年
12月21日(土)
～2月2日(日)
会場:
明石市立文化博物館



月探査機ルナー・リコネッサンス・オービターがとらえた「地球の出」 NASA/Goddard/Arizona State University